

平成26年度学校経営計画表

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校

1 学校の現況

学校番号	56	学校名	県立竜ヶ崎第一高等学校					課程	全日制		学校長名		小沼 光一				
教頭名	全日制 原 光広										事務長名		秋田 剛				
教職員数	教諭	47	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	3	実習教諭,実習講師 実習助手	1	事務職員	4	技術職員等	3	計	63	
	小学科	1 年			2 年			3 年			4 年			合 計		合計クラス数	
	普通科	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
		147	133	162	116	163	114					472	363	21			

2 目指す学校像

歴史と伝統を誇る重厚な校風の中で、文武両道の精神を継承し、豊かな教養と英知を備え、地域社会をはじめ国際社会に貢献しうる有為な人材の育成に努める。

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項 目	現状分析	課 題
学習指導	・90%以上が授業に真剣に取り組んでいるが、予習復習の実施率は80%を割っている。 ・家庭学習時間の不足している生徒が20%程度いる。 ・計画的に学習を進める習慣が定着していない。	・学習意欲を高め、自学自習につながる授業を創意工夫する。 ・宅習簿を効果的に活用し、家庭学習時間を確保するための指導を強化する。 ・3年間を見通した各教科の指導プログラム(シラバス)を明確にし、学習指導を充実させる。
進路指導	・国公立大学志向、理系志向が強まっている。 ・志望は高いが、具体的な行動に移せない生徒が多い。 ・進路行事は充実・整備されてきたので、これからは教科指導力を高めていく段階に入ってきた。	・生徒の希望や資質及び適性に応じた進路指導を、組織的に行う。 ・初期指導(Rプログラム)をさらに充実させて、学年と連携した学校全体の進路指導のあり方を明確化する。 ・進路状況を的確に把握し、進路指導体制を確立するための手立てを具体化し、共有化する。
生徒指導	・制服については、女子のスカート丈の短い生徒が多く感じられる。 ・規範意識の低い生徒や挨拶の励行ができない生徒がいる。 ・基本的生活習慣の未定着等により、心身とも不安定な生徒がいる。	・「さわやかマナーアップ運動」への積極的な参加等により、規範意識や道徳心を育成する。 ・遅刻の防止や挨拶の励行及び清掃の徹底等により、基本的生活習慣を身につけさせる。 ・学校全体の共通理解のもと、心の教育と教育相談体制を充実させ、スクールカウンセラーを有効に活用する。
特別活動	・部活動への加入率はH26年度79%(運動部:55%, 文化部:24%)で、様々な活動に積極的に関わろうとする生徒が多い。一方で、学業との両立に悩む生徒がいる。 ・生徒会活動の活性化、部活動未加入者への対応が必要である。 ・応援委員会(応援団, チアリーダー, マネージャー)の安定した人員確保が難しい。	・完全下校時間を遵守させ、部活動の効率化・充実化を図りながら、学習時間を確保させる。 ・生徒会行事の充実を図り、部活動未加入者を含めた生徒の活躍の場面を多く設ける。 ・応援委員会の活動をアピールし、委員の定着を図るとともに、応援委員の育成と活動形態の確立を図る。

4 中期的目標

〈教育の質〉の向上を目指す学校づくり(3年間を見据えて)

- 1 自他の尊重, 規範意識の確立, 公共心や社会貢献の精神の涵養など豊かな心と社会で生き抜く力を育む。
- 2 特色ある学校づくりを推進し, 社会変化に対応した教育活動の工夫と改善を図る。
 - (1) 学校評価等による生徒や保護者の期待と信頼の向上に努める。
 - (2) 地元の中学生や保護者に信頼され進学対象として選ばれる学校を目指す。
 - ア 中学生やその保護者は何を望んでいるかについての情報の収集と分析する。
 - イ 中学校訪問による聞き取り調査を実施し, その結果を元にして改善点を明確化して中期目標に反映させる
- (3) 難関大学現役合格を重要課題に位置づけ, 生徒の高い目標設定にもとづいた進路希望の実現を目指す。
- (4) 文武不岐の伝統を重んじ, 自己学習力の向上を目指すとともに, 部活動等を奨励し, 豊かな人格形成を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 学力の向上を図り学習指導の強化を推進する。	(1) スーパーサイエンスハイスクール事業(SSH), いばらき版サイエンスハイスクール事業(SSH)を推進し, 計画的・継続的取り組みにより, 生徒の意識改革及び意欲の高揚につなげる。 (2) 組担任・教科担任による個別面談により生徒の状況を把握し, 教員と生徒との良好な人間関係をととして学習効果を高める。 (3) 定期・実力考查で学力を鍛える。各考查や各模擬試験の事前事後指導を適切に行い, 各種補強学習を計画的・継続的に実施し, 弱点克服・自信強化に努める。生徒には常に高い目標意識を持たせる。 (4) 授業研究・授業公開等を活発化させ, 指導スキルの向上と生徒の学力向上に努める。
2 学習習慣を確立させ基礎学力の定着を図る。	(1) 高い指導スキルにより授業内容の工夫と充実を図り, 家庭学習の定着に努める。 (2) 習熟度の把握及び学力の分析に努め, 先取りした効果的な指導を展開する。 (3) 学年にこだわらず, 教科間の連携による学習指導を進める。特に, 初期段階指導を重視する。
3 進路指導を充実させ希望進路の実現に努める。	(1) 有効な資料の収集・活用に努め, 時宜に即した適切な進路指導や効果的な指導助言を行い, 生徒の持てる能力を最大限に伸ばす。 (2) 高い目標達成の意識を持たせ, 最後まであきらめずにチャレンジし続ける心を養う。 (数値目標: 東大・京大複数合格, 医学・難関国立大10名以上合格, 筑波大20名以上合格, 国公立大100名以上合格) (3) 学年間・教員間の連携を深め, 広い視野から組織力・協働力で効果的に進路指導を進める。
4 基本的な生活習慣の確立と豊かな心の育成に努める。	(1) 「凡事徹底」～当たり前のことを当たり前にできる生徒の育成に努め, あいさつの励行, 清掃の徹底, 規範意識の浸透, 豊かな心の育成等により明朗な校風づくりに努める。 (2) 教員間の協働態勢・共通理解による指導を推進し, 教師と生徒の信頼関係の構築に努める。 (3) 心の悩みや問題行動の早期発見・早期解決に努める。
5 体育・スポーツ活動を奨励し心身の陶冶と体力向上に努める。	(1) 文武両面において, 前向きに取り組める生徒を育成する。 (2) 部活動を奨励し, 生徒の研究心や自発性, さらに自ら工夫する能力を高め, 限られた時間内で最大限の効果を図れる練習方法を確立する。目標を明確にし, 計画的な活動を実践する。 (3) 部活動や諸学校行事への積極的な参加を促し, 同じ学舎でこそ生まれる相互理解や相互尊重の精神, 愛校心や竜ヶ崎一高生としての自信と誇りを育む。
6 国際社会で活躍できる能力を開発し, 広い視野を持つ人材の育成に努める。	(1) 英語によるディベートの推進。英語によるプレゼンテーションや各種英語検定試験の受験促進。 (2) 国際交流事業を推進し, 異文化を体験することによって, グローバルな視野を広げる。

